

経営比較分析表

和歌山県 印南町

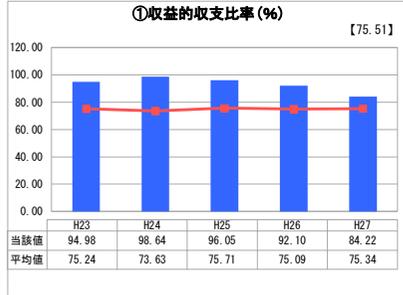
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	100.00	2,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,626	113.62	75.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,583	26.75	320.86

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



「単年度の収支」



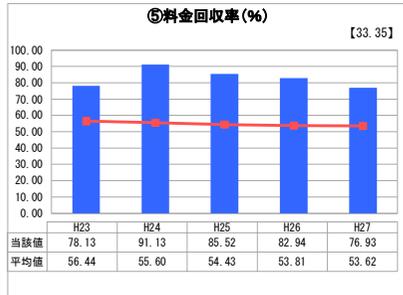
「累積欠損」



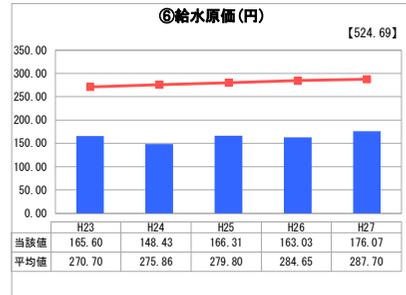
「支払能力」



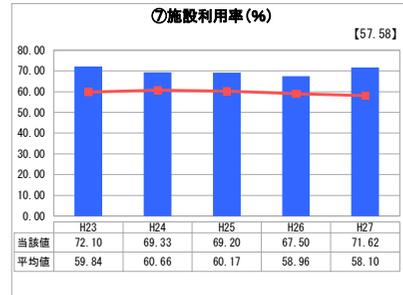
「債務残高」



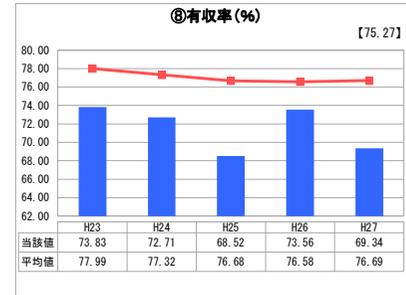
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

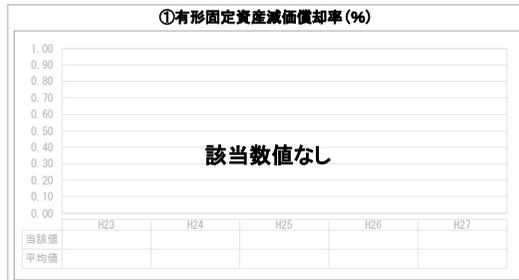


「施設の効率性」

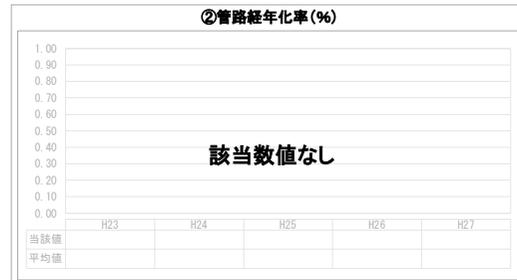


「供給した配水量の効率性」

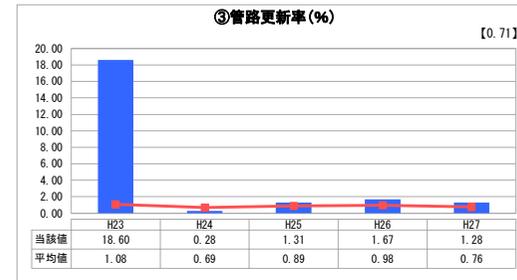
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

印南町では現在、簡易水道統合事業を実施しており、事業実施に伴う企業債の借入が続いている。このため企業債残高は増加傾向にあり、事業実施当初に借り入れた企業債の償還開始により償還金が増加している。施設利用率については潜在的な漏水が多く、類似団体平均を下回っているが、統合事業において老朽管の更新等を実施しているため、今後の改善が見込まれる。施設利用率については、依然として3割近い余剰能力があり、今後の給水人口減少等を検証し、今後ダウンサイジング等の検討をする必要がある。収益的収支比率、料金回収率、給水原価についてはそれぞれ類似団体平均と比較すると良好な数値であるが、将来の施設更新等を踏まえた適切な料金設定が必要となる。

2. 老朽化の状況について

統合事業の実施で、管路の更新等も実施しているため、類似団体平均・全国平均を上回る水準となっている。今後も財源を確保し、アセットマネジメント等を活用し、収支のバランスを考慮した計画的な更新作業が必要となる。

全体総括

統合事業の実施によって企業債残高が増加し、一方で慢性的な有収率の低さがあり、収支のバランスを考慮した運営が必要とされている。印南町では平成29年度より水道事業へ移行することになっており、より一層、水道事業の課題が示されることとなる。今後、適正な料金設定や施設の効率化などを検討していく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。